

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立東田小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 440-0065

愛知県豊橋市仁連木町15番地

E-mail azumada-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.azumada-e.toyohashi.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 234名 女子 237名 合計 471名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

はじめに

本校区には、水生生物が豊富に生息する朝倉川が流れている。また、戦後から続く朝市が開かれ、人と人との関わりの中で、新鮮な野菜や食材が売り買いされている。その他にも、古墳や城跡、寺社仏閣などがあり、子どもたちの生活に密着した教材にあふれている。これらを日々の学習の中に適切に位置づけることで、地域の“ひと・もの・こと”と深く関わり合い、「ふるさと東田」を愛する豊かな心を育みたいと考えている。そのために、これまでの教育活動を見直し、生活科・総合的な学習の時間を中心に学習を継続的に展開し、自分が住む地域のよさに気づき、将来にわたって地域への誇りと愛着をもてる子どもたちを育ていきたい。

① 自然・環境を考える活動 — 朝倉川探検 —

ねらい: 自然のすばらしさや環境を守る人々の活動にふれ、朝倉川と自分の生活との関わりに気づかせる

校区を流れる朝倉川に関心をもち、その現状について調査を行った。調査にあたっては、NPO 朝倉川育水フォーラムの方から水質調査の方法や指標生物による水質調査の仕方を学んだことで、調査に積極的に取り組むことができた。

この調査から、子どもたちは「きれいに見えても、川はやっぱり汚れているんだな」ということが分かり、さらに詳しく朝倉川を調査することにした。

総合的な学習の時間で里山について学習したことで、里山近くにある朝倉川上流に関心が高まった。「上流と中流では水のきれいさはどう違うのか」「サワガニが見つかったらいいけど」などの思いを抱いて上流調査を行った。上流に向かう中で、捨てられた自転車が落ちているのを見て、「上流は汚れているかも」と心配する様子も見られた。しかし、途中でカワセミを見つけられたことから、「水はきれいかもしれない」と期待が高まった。上流の調査では、NPO朝倉川育水フォーラムの方と調査を行った。活動の振り返りでは、「サワガニがいた！上流はきれいなんだね」という意見と同時に「ごみが落ちていたから、環境を守るために、ごみは拾わないといけない」という意見が出された。

その後、調査したことや自分たちの考えをを新聞にまとめたり学習発表会で他学年の児童や保護者にも朝倉川の現状を報告したりした。朝倉川を自分たちの手で保護しようという意識から、ポスターを作って掲示したり、NPO朝倉川育水フォーラムの主催する朝倉川530（ゴミゼロ）大会にも近隣の高校生や地域の方々といっしょに活動に参加した。

成 果

様々な調査活動を行ったことで、子どもたちは、自然にあふれた朝倉川をよりよい環境にしていくための取り組みを考えたり、これまで自分たちの調べたことを学習発表会で発表したり新聞にしたりして、他の学年の児童や保護者・地域の人たちにも朝倉川を守っていくことの大切さを啓発することができた。

② 地域の歴史にふれる活動 — 戦国武将戸田氏と二連木城 —

ねらい： 地域の城址や寺院に関わる人々の思いや決断が現代にまで受け継がれていることを実感する

戦国武将の生きる姿をより豊かにイメージし、その思いに迫るためには、現代とは異なる戦国時代の価値観について理解する必要があると感じた。そこで、戦国時代の農民のくらしや特徴的な事柄を調べることによって、当時の人々の価値観を理解することにした。

授業では、戦で戦う人のほとんどが農民だったという事実から、「もし農民の立場ならより強い大名が治める土地に住みたい。」という意見に焦点をあてた。子どもたちは、戦国武将が必死で戦う理由は、領地や勢力の拡大だけでなく、そこに住む人々の生活を守るためでもあったという気づきが生まれた。

戦国武将にさらに興味をもった子どもたちに、校区に残る「二連木城址」の写真を提示した。戦国時代に戸田宗光により建てられた二連木城は、現在「大口公園」になっており、子どもたちになじみの深い場所になっている。子どもたちは、戸田氏がどんな一族であったのかを調べたいと考えた。

子どもたちは、二連木城や今橋城（吉田城）をめぐる東三河の戦国武将の勢力の変化を年表と勢力図を作成することで、理解していった。そして、戸田氏をはじめとした戦国武将のおかれた立場を正しく理解し、その思いに迫ることができた。その中でも、子どもたちが着目したのは、1547年の「竹千代強奪事件」であった。本家である田原戸田氏の滅亡の原因となったこの事件を取り上げ、話し合いを行った。

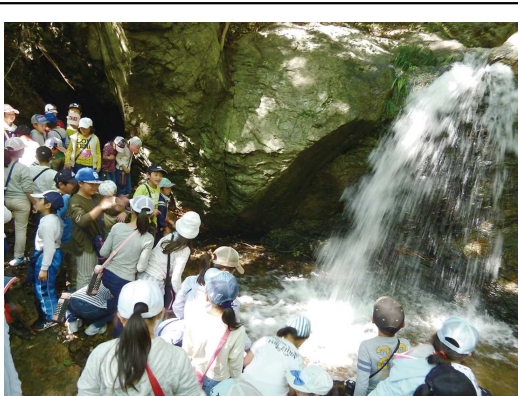
田原戸田氏は、松平氏から今川氏に人質として送られる竹千代（後の家康）を強奪し、織田氏に送ろうと画策した。子どもたちは、「今川を裏切らなければ、戸田氏は滅びなかったのに。」「なぜ、竹千代を織田に渡したんだ。」と、田原戸田氏の行動に疑問をもった。

そこで、竹千代強奪事件直前の東三河の情勢を勢力図に表して整理し、「田原戸田の家臣」という立場から、作戦に従うかどうかを判断することで、決断の重大さに迫ることにした。授業では、「戸田氏が生き延びるためには、何を理由にして決断すべきか」ということが話題になった。話し合いでは、今川氏への恨みを理由にして、これ以上今川氏の味方につくのはおかしいという考えをもつ子がいた。同じ立場の児童は、織田氏、今川氏、松平氏の石高の差という異なった観点で自分の考えを述べた。それに対して、織田氏のおかれた状況を説明して、織田氏についても、その先は分からないという考えを述べる子もいた。

話し合いを行う中で、子どもたちの真剣に考える表情が多く見られた。「きっと当時の人たちも、君たちのように真剣に、いろいろなことを考えて、この作戦を実行するという決断をしたんだね。」そう伝えて話し合い活動を終えた。

成果

群雄割拠の三河の地で、生きるか死ぬかの究極の選択を繰り返しながらも、戦国大名として生き残ろうとした戸田氏の生き様にふれることで、子どもたちは、現代と異なる価値観の時代であっても、よりよく生きたいと願う人々の思いは変わらないことに気づいた。



② 朝倉川への源流調査



① 戸田氏の菩提寺の全休院への見学

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

等	
---	--

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

かかがく豊橋 副読本あずまだ 東三河の史跡と文化財 豊橋市政 100 周年記念校区のあゆみ東田 東三河歴史散策 郷土学習のすすめ ふるさと豊橋 朝倉川流域ビジョン

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

<p>ESD活動は、主に、低学年では生活科の時間に行い、中・高学年では総合的な学習の時間に行うことになっている。そのため、総合的な学習の時間は、年間の指導計画を作成して実施している。その活動が、中・高学年では、理科や社会科の学習と関わることが多いので、教科横断的な学習を設定することもある。</p> <p>ESD活動では、子どもたちから沸き起こってきた疑問やみんなで考えていかななくてはならない課題を設定して、その解決のための思考過程を大切に学習を展開する。子どものこだわりによって、学習形態をフレキシブルにして、個人・グループ・全体での学びを効果的に取り入れる。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

各学年にESD担当を置き、活動の進捗状況を確認し合う機会をもつ。継続的に活動に取り組めるように、活動の成果と問題点を年度末に出し合い、改善策を話し合い次年度に生かすようにしている。
交流しているNPO団体や校区のボランティア団体との打ち合わせを密にして、年度末の感謝の会に招待してESD活動以外での子どもたちとの交流も図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

学校評価の項目としてESD活動をあげ、成果と問題点を明確にしている。成果としては、校区を流れる河川の環境保全の大切さを地域に発信することができた。また、地域の歴史遺構から、人間の営みの連続性に思いを巡らすことができるようになった。
課題としては、地域や人との出会いを効果的に位置づけた学習を構想していくための教材研究を丁寧に行うこと。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

校区を流れる河川の環境保全に関わる取り組みは、保護者には、学習発表会で成果を発表し、地域でもNPO団体主催の会にもボランティアで参加している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

河川の環境保全に関わる活動では、NPO団体と交流して活動している。その活動を通して、近隣の高校や地域の各種団体・事業所と一緒にあって河川の保全運動に加わっている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

本校区を流れる河川と隣接する小学校との交流を計画し、河川の上流・中流・下流での地域環境や自然環境を互いに報告し合うような活動を目指したい。

本校区を走る路面電車を取り上げ、路面電車が運航するほかの小学校や全国の路面電車が走る小学校との交流を計画したい。また、NPO団体の路面電車を守る会との交流を計画したい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

本校は、主に、地域を活用した活動を行っている。ESD活動として取り上げられる地域素材は豊富であるので、子どもたちは地域の中で学びを深められている。地域の教育力を十分に活用することで、子どもたちも地域に愛着をもつようになり、それが、さらに外部団体や他地域との交流によって、広がりのある継続性のあるものなると思う。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成30年度、新たな取り組みとして、5年生において健康・福祉分野を取り上げ、地域の老人センターとのきっかけとして、地域の高齢者と自分たちとのかかわりを考えていく活動を展開する予定。